

## 天鐘

〈2019.8.19〉

高校野球史の伝説である太田幸司さんは9年前、人生で初めてアルプススタンドに立った。夏の甲子園に出場した長男の試合を応援団と一緒に観戦。かつ

て三沢を準優勝に導いたエースは、この時初めて気付いた▼応援団が陣取るスタンドは灼熱の暑さで皆汗だく。声は枯れ、喉もカラカラ。「自分の時も、みんなこうして炎天下のなかで応援してくれていたのだ」。自著『甲子園進化論』（幻冬舎）で述べている▼自分はマウンドの上で戦っていたが、スタンドには違う闘いがあったのだ。遠く離れた青森から駆け付けてくれた応援団のありがたみを、時を経てかみしめたという。自らも驚くほどの力が発揮されたとも▼今夏のスタンドも猛暑に負けないような熱さだった。昨日の準々決勝。青森県代表の八戸学院光星は7年ぶりの4強入りを懸けて臨んだが、一步及ばず。ハラハラし通しの接戦を応援団は鼓舞し続け、試合後も喝采を送った▼東北勢の活躍が当たり前のようになって久しい。ひと昔前まで、お盆を過ぎると応援する県はほとんど姿を消していた記憶が長い。それが強豪ぞろいと言われるまでになった▼今大会も光星をはじめ仙台育英、鶴岡東などが善戦。惜しくも敗れたものの、接戦を重ねるほどに強くなってきた。深紅の大優勝旗の「白河越え」もそう遠くはない。アルプススタンドと一緒に沸く日を待ちたい。